

23年度

パドラーズトピックスー4

東日本大震災一ひとつの考え方の報告 気仙沼から(3月30日～4月1日)

3月11日の東日本大震災直後の13日からパドラーズは会員の親戚や仕事上のお付き合いなどの被害の状況を調べながら、羽生環境調査部長の宮古市、伊藤巧一理事の仙台市、後藤副理事長の大船渡市、中村理事の気仙沼市などを3月25日まで7回救援物資を届けながら調査をしました。その結果、中村理事の親戚の気仙沼の武田調剤薬局の武田雄高さんから自宅のがれき撤去とヒドロ上げの要請と、ししおりの民間ボランティアの渡辺さんからも水が欲しいと依頼があり、給水車10トン車とガソリンや私たちの宿泊先なども決まったので会員及び一般の方に声をかけて30日から4月1日までの2泊3日で気仙沼の南郷地区のピンポイントの支援をすることにし、4月9、10日、4月16、17、18日、4月23、24日と計4回の第一次の支援をすることを決め活動を始めました。



3月30日AM11:00ごろ、武田さんの道案内で気仙沼の南郷地区に入りました。最初に目に入ったのが大川の川べりのたくさんのゴミ(がれき)でした。いたるところに車の残骸が目につきました。



こんな中でも、道端では灯油販売やラーメンの営業中などの看板を目にし、震災から18日にして、このような営業活動をするたくましさも感じさせました。

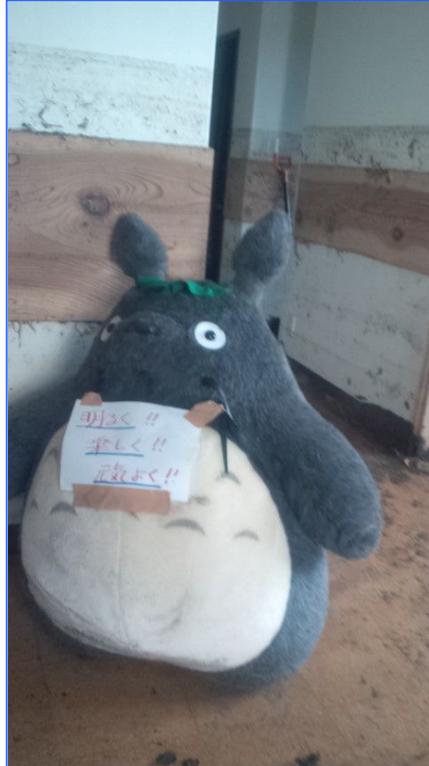


この矢印のところまで津波が押し寄せドアや窓がわれ、室内の家財や眼科用器材や外からのがれきとヒドロが入り混じった状態でどこから手を付けたらいいかわからない状態で私たちも唖然としました。

依頼先の南郷調剤薬局と武田眼科さんの建物です。



河川愛護の団体パドラーズとしては心痛む大川の状態です。機会があればきれいになりたいな！！！！！！



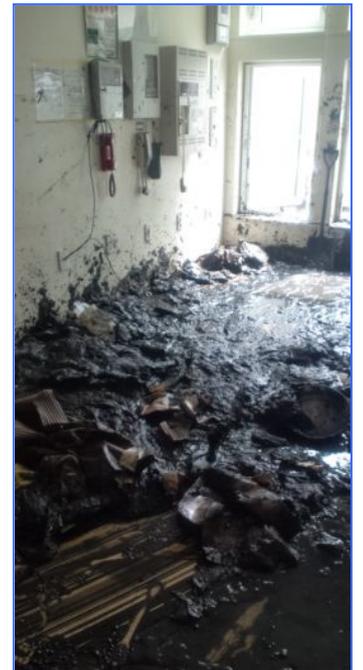
明るく、楽しく、元気よくと トトロも応援しています。



中村震災担当理事の支持のもと、3日が限度と若者に言わせた作業を到着後休む暇も無く行いました。まず室内のがれきやヒドロの撤去を始めました。武田氏邸は標準の家の3倍ぐらいの広さの家で、庭中一杯になるぐらいのゴミの様子です。



31日の朝、火災があった気仙沼港（大川の対岸）を視察しました。気仙沼線まついわ駅からさいち駅の現場も見て回りました。被災現場に唖然としてしまう私たちです。本当に声も出ませんでした。



朝食後武田眼科医院のがれきと器材の搬出とヘドロ上げです。

200坪はあろうかという医院の片付けは2日間では出来ず来週に持ち越しました。



給水担当は災害対策部長の高橋宏光さんで大型免許を持っていましたのでお願いし、ししおり地区と南郷地区で給水サービスを行いました。給水車が行き届かない地区は思ったより多く水を入れる容器も無く、また高台に避難している方の給水は小回りのきく小型の給水車が便利のようです。



ししおり（鹿折）地区は気仙沼でも被害が特にひどい地域で多くの船が打ち上げられ、火災で炎上した家屋や船の残骸でさながら戦場のようです。こんな中で民間ボランティアをしていた渡辺さんはこの地域のお年寄りが震災直後から水を求めさまよう有様を見て、この

パチンコ屋の駐車場にししおり小学校からテントを借りて、水の配布を始めたのがきっかけでした。本人はボランティアをしているという気持ちはありませんでした。周りからは大変感謝されましたが、行政は避難所とは認めず、救済物資も届けてもらえない状態でした。後藤副理事長や中村理事がこの現状を見てパドラーズで支援しなければいけないと思ったようでした。（納得です）



渡辺さんが小学校に続く土手の修復をしたところです。行政にお願いしてもなかなかやってもらえず、自分たちで行ったそうです。



今回参加した熱きメンバーです。大変でしたが充実感がみなぎっています。少しでもお手伝いできたことに感謝している面々です。また来よう、出来ることをしよう、すこしでも！！！！



ひと時の休息の時間です。昼食も夜の食事もみんなで食べ、一緒に寝泊りすることで年齢や男女問わず思いの参加の理由や感じたことなど語りあうことのすばらしさを感じられました。今回の気仙沼でのボランティア活動を通じ、参加された方々が自らリーダーとなって次の被災地へのボランティア活動の担い手となって動き出すきっかけが出来たようです。パドラーズとしてはうれしい結果となりました。地元の方たちと一緒にがれきの撤去などの活動が出来ることで、交流を深められることも重要なポイントであると思いました。



4月1日気仙沼からの帰り、新月パーキングで給水車に乗り記念撮影です。給水で教えられたことがありました。10トン車を持っていったため、私たちの生活用水もまかなえて大変便利でした。南郷地区で長靴の泥を流したとき、近くのおじさんから「私たちはどんな汚れた水でも飲むんだ」と言われたことに「ハットした。」この地域は水は大事な命の水なのに、恥ずかしさを覚えたのでした。



今回は秋田市の水道局のご協力で水を提供していただきました。有難うございました。

今回の活動で思うことは、がれきの中の被災者の方々は何かから手をつけていいのか呆然とし、私たちががれきの撤去やヘドロ上げを手伝うことで、自ら片付けの行動を起こしてくれたことでした。自ら復興の為動き出す少しのお手伝いが出来たことが大変うれしかった。少しは役に立ったようで!!! また来週来よう・・・